

2011 Abstracts for Specially Funded Research

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: IZUHARA, Tsukie, YOSHIDA, Kozo メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3855

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



神戸ファッション美術館との学館協働事業による復元研究—織物—

学芸学部 被服学科 伊豆原月絵

学芸学部 被服学科 吉田 紘三

筆者は、大阪樟蔭女子大学と神戸ファッション美術館の学館協働事業の一つとして、神戸ファッション美術館の収蔵品についての研究を行っているが、平成23年度には、大阪樟蔭女子大学の特別研究助成費を得たことから、この収蔵品のうち、製作年1745年とされるフランス宮廷衣裳(ロココ時代)のシネ(緋)作品を選び、その織物の復元研究を行った。

1. 研究の目的

貴重な第一次資料を基に、往時の美意識やその美意識を支えた染織技術、染織方法などを明らかにすることを目的とした。

2. 方法

このシネ(緋)の織物について詳細な計測を行った。紋様のサイズデータ、色彩データを作成した。それらのデータを基に緋の染めと織について、伊豆原 月絵の指導のもと、伊豆原ゼミの学生が経糸に、天然染料にて摺り込みの手法を用いて染色を行い、緋糸を作成した。織は、非常勤講師の吉田紘三先生の指導の下、ゼミ生が研究室にて織物を行った。

2-1 織物製作過程—下染めと染色—

このロココ時代のオリジナル衣裳は、縦に花紋様と縞紋様が交互に並び、幅630mm、長さおよそ20,000mm。5平方mm(mm²)に経糸が43本、緯糸20本であり、糸は細く繊細でしなやかで、張りのある布である。

復元に際し、糸は21デニール、片撚り糸を2本以上引きそろえて、その撚りと反対の方向に撚り合わせた「2本撚り」を用いた。下染は、五倍子、ヤマモモ、ヤシャブシ(夜叉五倍子)を混ぜて行った。

染色は、往時に用いられていた染料に準じ、植物染料のインド茜、藍、ウコン、ヤマモモと動物染料のコチニールとラック染料に媒染剤を用いて、8色の染色を行った。

本研究では、少しでもオリジナルの「シネ」に近づくため「摺り込み技法」を用いて、染料を染み込ませた摺り込み棒2本で、紋様をつける部分の糸を挟み、擦り合わせて染色を行った。ゲージは、10本一束340

本、それに12,560箇所あまりの紋様の染色を行った。

2-2 織物の過程

1枚の綜統枠に綜統980本、経糸は、5,880本を通した綜統枠を6枚用いた。

経糸の密度を定め、織り幅を保つ筈は、鯨寸間1寸に88羽の箴羽で、長さは640mmを用意し、整経には、延べで約60時間、綜統通しには、延べ約95時間要し、箴通しには、延べで、約60時間かかった。

3. 研究成果

3-1 復元した織物は、平成23年7月14日から9月27日まで神戸ファッション美術館にて開催された「学館協働事業展」において展示され、その後現在まで常設展で展示されている。

3-2 染織と生活社発行、平成23年12月発刊の『染織情報α』には、この織物の復元について伊豆原が執筆し、見開き2ページの写真入りで掲載された。染織の雑誌としては、最も古く多くの専門家を読者にもつ本著に掲載されたことは、社会に学問の専門性と学生指導および学生の向学心の高さをアピールすることができた。

3-3 平成24年3月3日、国際服飾学会の研究例会(東京の昭和女子大学で開催)にて、2時間にわたり復元研究についての報告を行った。織物の復元作品の展示を行い、本研究の織物研究について詳細に報告した。

結語

これらの研究から、色彩や織物に対する美意識と染織技術の高さが解明できた。また、樟蔭女子大学の学生の研究意識の高さを社会に発信できたことは、有意義であった。



図1 シネ(緋)部分